（別紙様式）

e01

平成２７年度 学校自己評価システムシート（県立春日部高等学校・定時制課程）

目指す学校像	基礎学力を身に付け、人権尊重の精神を養い、一人ひとりの生徒が生き生きと共に学び合う学校

重点目標	1　安心安全な環境の中で、基本的生活習慣を身に付けさせ、規範意識と自己管理能力を育成する。 2　「わかる授業」を実践し、進路に応じた学力の向上を図る。 3　キャリア教育を実践し、進路希望を実現する。 4　学校・家庭・地域社会への情報発信を通じて、魅力ある学校づくりを推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）			実施日　平成　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○多様な生育環境を有してきた生徒が在籍している。すべての生徒が共有できる安心安全な教育環境は整いつつある。また、学年を追うごとに基本的生活習慣が徐々に身に付き改善されてきている。 しかしながら、規範意識の定着や自己管理能力は、まだまだ不十分である。学習指導や学校行事への参加を通じて、粘り強く指導し、社会のルールやマナーを遵守できる生徒を育成する必要がある。	○中途退学率、非行・問題行動発生率の減少 ○無断欠席、遅刻、早退者数の減少 ○学校生活に満足している生徒数の増加	①SCや担任による個人面談や報告会を実施し、情報共有と生徒理解に努め、効果的な指導を行う。 ②特別支援学校や関係機関を訪問しｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ等と連携した指導を行う。 ③-1登校時は立哨指導を行い日頃から全生徒との関係を深める指導を行う。 ③-2生徒指導に関する研修会を実施し教員の指導力向上を目指す。 ③-3家庭や保護者との連絡を密に取り、連携した指導を行う。 ④年３回の学校生活ｱﾝｹｰﾄを活用して教育活動に工夫・改善を加える。	①中途退学率が前年度より減少したか。(H26:8.6%21名) ②非行・問題行動の発生件数を減少することができたか。（H26：14件） ③出席率90%以上、遅刻率、早退率・欠課者数を減少することができたか。 (H26出：88.1% 遅：13.6% 早：3.0%) ④学校生活に満足する生徒の割合が80%を越えたか。 (H26:67.6%)				
2	○静かな授業環境が整備され、周囲からも高く評価されている。 しかしながら、基礎学力の確実な定着は大きな課題である。生徒のモチベーションを引き上げ、学力の向上と卒業後の進路実現に向けた効果的な取り組みが必要である。	○「授業がわかる」生徒数の増加 ○静かで落ち着いた授業の実現	①教員相互の授業参観や授業研究により授業改善を図り、学習ｻﾎﾟｰﾀｰを活用し、わかる授業を展開する。 ②少人数・習熟度別・ﾃｨｰﾑﾃｨｰﾁﾝｸﾞによる、きめ細かな学習指導を実践する。 ③来校者及び生徒へのアンケート調査を実施し、結果を授業へ還元する。	①定期的に実施する小・中学校の学年別理解力テストの結果が向上したか。 ②「授業がわかる」生徒の割合が80%を越えたか。 (H26:65.8%) ③来校者や生徒の授業ｱﾝｹｰﾄで「静か」「真剣さが感じられる」が80%を越えたか。 (H26:58.5%生徒ｱﾝｹｰﾄ)				
3	○進路未決定で卒業を迎える生徒が少なくない。 入学時の早期からキャリア教育の実践と生徒の進路希望を実現するため、蓄積されたデータを活用し、計画的・組織的な学力向上の取り組みが必要である。	○進路未決定で卒業する生徒数の減少 ○進学希望実現者数の増加	①進路講演会や分野別専門学校体験講座を開催する。(5月) ②授業や特別活動を活用したｷｬﾘｱｶﾞｲﾀﾞﾝｽを実施する。 ③-1総合的学習の時間に学習講座を開講し、進路実現に必要な基礎学力の向上に努める。 ③-2企業訪問とｱﾌﾀｰｹｱｰを行い就労を支援する。	①進路未決定者の割合を30%以下にすることができたか。 ②正規雇用者の割合が30%を越えたか。 ③企業訪問を実施し、就職実現率を前年度比10%以上増加することができたか。				
4	○中学校への積極的な訪問やＨＰの定期的更新、最新の情報の発信などによって本校に入学する生徒の割合が増えている。 今後も情報発信の工夫と継続を図り、春日部高校定時制の、魅力ある学校づくりを推進していく必要がある。	○学校見学者数の増加 ○入学希望者数の増加 ○来校保護者数の増加	①前年の中学校訪問や学校見学体制を継続し、全教職員による計画的・組織的な体制で実践する。 ②受検希望の生徒への魅力的な学校案内を作成し、近隣の中学校に配布する。 ③適応指導教室へ訪問する。 ④定期的にHPを更新し、最新の情報を提供する。	①体制が計画的、組織的に十分機能することができたか。 ②中学校関係者来校数は増加したか。（H26:55件） ③適応指導教室への訪問数は増加したか。（H26:87件） ④定期的にHPを更新したか。				